

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)クレヴィア四條大宮新築工事

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

Table with columns: 配慮項目, 重点項目等, 重点項目に対する全国版評価基準の見直し, 環境配慮設計の概要記入欄, 建物全体・共用部分 (評価点, 重み係数), 住居・宿泊部分 (評価点, 重み係数), 全体. Rows include categories like Q1 室内環境 (音環境, 温熱環境, 光・視環境, 空気環境), Q2 サービス性能 (機能性, 耐用性・信頼性).

2.4 信頼性				3.2	0.19	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			通信手段の多様化を図っている。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				2.8	0.29	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり				-	-	2.0	0.50	
1 階高のゆとり				3.0	-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制			住宅性能温熱等級4取得予定	3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電設備を採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				4.9	0.40	-	-	4.9
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			#VALUE!	5.0				
集合住宅の評価				4.9				
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			フロン・ハロン不使用	3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.50	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる